

政策提案特別委員会記録

令和 6 年 3 月 2 2 日

【開催日】 令和6年3月22日（金）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後1時30分～午後2時58分

【出席委員】

委員長	大 井 淳一朗	副委員長	中 岡 英 二
委員	伊 場 勇	委員	笹 木 慶 之
委員	山 田 伸 幸	委員	吉 永 美 子

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

なし

【執行部出席者】

なし

【事務局出席者】

局長	河 口 修 司	局次長	中 村 潤之介
議事係主任	岡 田 靖 仁		

【審査内容】

- 1 政策提言のテーマについて
- 2 その他

午後1時30分 開会

大井淳一朗委員長 ただいまより、政策提案特別委員会を開会します。お手元にあります付議事項に従って進めてまいりますので、委員会運営に御協力のほどよろしくお願いします。レジュメがスマートディスカッションに入っていると思いますが、大きく分けて「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」と書いたものと、追加資料として、前回出していただいたA、B、C、Dのものがああります。まず、冒頭におわびしておかなければなりません。先ほど追加資料として出していただきましたA、B、

C、Dに分けたものの施策に優劣はないことに変わりはないんですけれども、前回、Aにある「充実を望まれる施策」が一番重要ではないかということを行いました。ただ、よくよくこの表を見ると、最も重点的にやらなきゃいけないのは、Cの領域です。なぜかという、重要度が高いにもかかわらず満足度が低いので、重点的に取り組まなきゃいけないという点から、Cに一番力を入れなきゃいけないのではないかというのが正確な表現でした。前回、私が「Aが一番大事」みたいなことを言っておりましてので、訂正しておわびします。それを踏まえて、今からお手元にありますが、今回もつくってきましてので、これに従ってやっていきたいと思っております。こちらの、第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略をあえて挙げたのは、前回の委員会の中で、人口減少を危惧する意見がありました。それに対してどうやっていくかということで、この人口減少問題に、山陽小野田市も取り組むべく、まち・ひと・しごと創生総合戦略をつくりました。ただ、この第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略は総合計画の中に一緒に組み込んでおりますので、その点は御承知置きいただきたいと思います。この創生総合戦略の基本目標として、(1)、(2)、(3)、(4)とありまして、これが大きな柱となっております。下には政策提言テーマ案とあります。公共交通、学校教育、山口東京理科大学、文化スポーツと挙げております。これらは、皆さんが前回の委員会の中で、複数の委員が「こういったことをテーマとしてはどうか」と言ったものをピックアップしたものです。それぞれの総合計画の中の基本施策、基本事業、それから先ほど述べました総合戦略の中の位置づけが書いてあります。これらについては、先日配付しておりますので、事前に目を通していただいておりますかと思っております。今日の主な進め方としましては、まずは政策提言テーマ案を絞り込んでいくということと、もう一個は跡地活用です。跡地活用についても複数の委員から出ておりました。ただ、これは総合計画の中に入れ込むのが難しかったので、分けて考えたいと思います。この跡地活用についてどうするかというのも、今日の委員会の後半で皆さんと議論していきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。まずは前段です。政策提言テーマ案というものがあり

まして、先ほど述べましたように公共交通、学校教育、山口東京理科大学、文化スポーツ、この辺りが意見として出ていたかと思います。この中で、当委員会が政策提言をしていくために絞り込んでいきたいと思っています。ここに挙げたものは全て重要なものではありませんが、全てはできませんので、皆さんの中で絞り込んでいただきたいと思います。その中で、ポイントとなるのが総合戦略の位置づけで、例えば公共交通の総合戦略の位置づけは、持続可能で元気な住みよい地域社会をつくるとなっております。これは、めくっていただいて、文化やスポーツも同じようにくくられると。それに対して、学校教育は(3) 結婚、出産、子育ての希望を実現し、まちへの愛着をつくるという位置づけです。山口東京理科大学は(2) 学びの力や観光資源等を生かした魅力により、新しい人の流れをつくるというように位置づけられるかと思います。こういう位置づけの中で、皆さんの中でテーマを絞り込んでいただきたいと思います。まずは政策提言のテーマ案を見て、皆さんから意見を頂きたいと思います。よろしくお願いします。

山田伸幸委員 先日、山口東京理科大学の卒業生の進路が出ていましたが、山陽小野田市に残る人が非常に少ないという印象を持ちました。残られる方もいるんですけど、それは地元から大学に行かれた人が残るということでした。やはり大部分の方はよそに行ってしまうというか、都会に行ってしまう。その点で、私たちのまちの魅力の在り方というのが改めて問われているんじゃないかということを見ながら感じたんです。では、一体何が不足しているかということを見ながら考えたらいんじゃないかと思いました。

大井淳一郎委員長 まちの魅力を上げていくことによって、人口流出を防ぐということはあるかと思います。理科大生は恐らく、例えば福岡から来た人は福岡に帰るということで、自分の地元に戻る感じでしょうね。都会に出ていくというよりは。

山田伸幸委員 進路先で一番多かったのが、病院なんですよ。要するに病院の薬剤師になるというのが一番多くて、一番少なかったのが企業への就職なんですよ。これはたった1人しかいらっしやらない。だから、地元に残ってそういう企業に就職して、将来的な定住にもつながるようなルートが一番理想ではあるんだけど、それがもうほとんどないというのは非常に残念だなと思いながらニュースを見ました。

大井淳一郎委員長 山田委員の言われることは非常に大事なことでありますが、今日は政策提言のテーマ案の中で絞り込むという話なので、この中から絞り込んでいきたいと思います。いかがでしょうか。どれも重要ですけど、全部はできませんので。

吉永美子委員 以前から申し上げているところですけども、高齢者が免許を返された後に、動きやすいということはすごく大事だし、追加資料の中のCのまさに「高齢者福祉の充実」に当たっていると思っていて、公共交通という部分はもっと押し上げていくべきテーマではないかなと強く思っています。

大井淳一郎委員長 吉永委員から、公共交通が出ました。これは、追加資料にあるうちのC、重点的に取り組むべき施策、満足度が低く重要度が高いということで、この点をテーマにしてはどうかといった意見だったと思います。皆さん、補足も含めていかがでしょうか。

笹木慶之委員 いろいろな言い方があるかと思いますが、学校教育の推進というテーマの中の、次世代につなぐ教育環境の充実です。これは、まちへ愛着を呼ぶといいますか、つないでいくということが、結果的にはまちの繁栄を願うために、子供たちの教育環境を整えながら、そして次世代を担う子供たちの政策をしっかりと語るべきではないかなという意味合いです。前回も言ったかと思いますが、夢をつなぐといいますか、人口を増やそうというところについては、結局は基本項目の四つに入ってい

きます。いずれも重要な案件ではありますし、今の人たちを重要にすることももちろんですが、次の世代につなぐ政策をしっかりと語るべきではないかなと。そのための施策をつなげば、そういった道につながっていくんじゃないかなという思いを込めて、先ほど申し上げたわけです。もちろん、山口東京理科大学には、次の時代ではつながりができますけど、その手前のものを含めながらつないでいかないと、なかなか地元の人は帰ってこないと思いますので、その点にもう少し力を入れるべき語らいをできればなと思っています。

大井淳一郎委員長 教育の中でまちへの愛着を育むという意味で、現在コミュニティ・スクールの中で地域と学校の連携を深めて、一生懸命にシビックプライドの醸成をしているところもあるかと思います。教育の面、次世代につながるとのことでの御意見だったと思います。そのほか、皆さん、どうですか。

伊場勇委員 公共交通については、満足度が低いとなっているので、何とか皆さんで協議して、何か成果を出していきたいなと思うんですが、内容的には、本市においてはとても難しい状況にもあるかなと思います。抜本的に、市民のグループで交通の利便性を図るようないろいろな仕組みが他市ではあるんですが、それを市においてどう落とし込むことができるのか、どのように市がフォローできるのかというところが、なかなか難しい判断になるのかなと思います。ただ、新しいものをつくり上げようとしているこの委員会ではいい材料であるかなと思っていますので、ここは取り上げてやっていければなと思っています。もう一つ、学校教育のことです。笹木委員がおっしゃったことはごもっともですけれども、私と思うのは、地方だからこそ歴史のある文化遺産が非常に多いと思うんですよ。都心はいろいろ開発が進んでいて、昔の跡も石碑だけになっているところがあるかと思うんですが、本市は程よい地方でして、例えば古墳もあります。実際に「なぜ自分がここで生まれ育ったのか」という根本的な教育があれば、シビックプライドやふるさとへの愛情につな

がると思うんですよ。それは地方にしかできない教育のやり方であって、皇紀2600年と言われてはいますが、原点的な教育をもっと推進することによって得られる効果があるかと思っています。それは山陽小野田市特有のものになるかと思いますが、子供たちに対しても、教師も大人も学ばなきゃいけないところがあるかもしれませんが、そういった歴史教育を踏まえた上での学校教育の充実、山陽小野田市ならではの教育の推進というのを、ひとつまた皆さんと協議していけたら、オリジナリティーのあるものができるんじゃないかなと思っています。

山田伸幸委員 島根県津和野町に津和野高校ってあるんですけど、津和野町を挙げて村留学をしていて、津和野町出身の資産家の方が粋に感じられて、津和野高校にいろいろなところから留学してもらうため、50人ぐらい入られる寮を建設されたんですよ。そういったいい施策に対してお金も集まってくる。そういうのがニュースになって、また「津和野高校の教育ってどういうふうに入れているんだろう」という興味を持って、また人が集まってくる。都会ではなかなか得られにくい魅力を津和野高校で得られるということなんですね。これは以前も言いましたけれど、隠岐の島の島前高校は島留学に非常に力を入れていて、世界中から注目が集まっていて、まちのにぎわいになってそこで産業も生まれていくというような好循環をしているんですね。やはり、親にとって子供がどう育つかというのは非常に興味関心の高いところであって、そのためにこそ、このまちを選ぶということで、これも以前言いましたが人口増や人口定住にもつながっているという実例なんです。残念ながら山陽小野田市にそういうものがないように思います。せっかく少人数であって学校を残したのなら、少人数である強みを生かしていくような教育が行われていないのが残念だなと。その辺が、力の入れどころじゃないかなと思いますけれど、これはこのまちの在り方をつくり出していく上でも重大な取組、そして方向性の一つだと思います。

中岡英二副委員長 このテーマの中で吉永委員も言われましたが、満足度が低

く、重要度が高いという公共交通は、皆さん大事だと思っているんですけど、どのようにしたらいいのか答えが出ていないのが現状と思います。地域公共交通網の形成というのは、執行部も一とおりの案は持たれていると思うんですが、地域に即した地域交通網の形成というのは、我々もしっかりと考えていかないといけないと思います。それと、少し外れましますけども、高齢者による福祉バスの実現も同時進行でやっていくことが、地域公共交通網の形成の一助になるんじゃないかなと思っています。それともう一つ、先ほど山田委員から、山口東京理科大学の若者の定住が進んでいないということなんですが、山口東京理科大生と話をしている中で、どこが定住につながっていないのか。商店が少ないとか魅力がないとか、そこから波及することがあると思うんですよ。そういうのも出てくると思いますから、山口東京理科大生との連携は、もちろん知の部門でも、山口東京理科大学をもう少し市が活用できるような形で連携を強くしていくのが大事だと思います。この2点のテーマを進めていってほしいと思います。

大井淳一郎委員長　山口東京理科大学の学生との意見交換は、なるべくしようと思っています。具体的にはまだ決まっていないんですけども、公共交通にせよ学校教育にせよ、要は山陽小野田市に魅力として何が足りないのか、どうしたらいいのかというのは、我々の中だけで話し合うのではなくて、特に若い人の意見を取り入れるためには、山口東京理科大学の学生だと思っていますので、絶対やろうと思っています。彼たちと意見交換する中で、どういったものをテーマに持ち出したらいいのかなというところで絞り込んでいきたいと思っています。魅力というところでくくれば、公共交通網の整備と、学校教育というか次世代へのというのは、魅力ある山陽小野田市といってくくれるんですけどもね。そのほか、いかがですか。公共交通と学校教育を両方打ち出すというのも一つの考えだし、公共交通は高齢者だけじゃないですけど、若い人に目を当てるかという違いでもありますけど。皆さんの中でもう少し掘り下げていきましょう。

伊場勇委員 山口東京理科大学については、薬学部の1期生の就職者が93名で、うち県内就職者は約2割の19名。市内って書いていなかったですよ。市内はいらっしゃるのかなと思ったんです。メディアでは大谷室長がいろいろコメントされていましたが、実際に声を聞くのが一番なんじゃないですか。なので、本市に住んでどうだったのかというところと、全員が全員というのは難しいんですけども、実際に第二のふるさとと感じていただいて、何かのきっかけでまた戻ってこられるような、1割でも2割でもそういった関わりを持てるような政策が何かしらできればいいのかなと思います。何が正解か分かりませんが、聞いていて思いました。それと、さっき山田委員が言っていた島留学の話です。半分ぐらいが県外から来ている人でと。高校はなかなか市が手を出せないところかなと思うんですけど、小学校や中学校では、実際には小規模特認校を厚陽小中学校で今から準備するという話があって、中学生の要望では、一応全国からしてほしいということだったんですけど、それをするると山村留学みたいな形で寮を完備しないといけなくなってくるから、取り始め、今のところは市内の校区から入れていくという話になっています。もちろん、よそから来て注目されたらとてもすばらしいことなんでしょうけど、そこは難しいのかなと思っている中で、歴史的なもののように、今ある資源をきちんと再認識させるということに、もっと意味を求め、深みを持たせるようなことが必要かと思います。だって、よそから魅力的を求めて来るわけですから、津和野もあると思いますけど、うちも負けないと思いますよ。それなりの文化財がある。あとは発信の仕方ですね。だって1600年前の古墳があるわけじゃないですか。それをどういう人がどういうふうに造ったのか。子供たちにそれをどう魅力的に伝えるかだと思うんですよ。だから、大人がきちんと積極的に教えるかどうかで、どういった効果が出るかというのは、ここでまた研究していけたらいいと思うんですけど、そういうところを島根でも島留学をやっているんですよ。だからこそ、あれだけの人が集まってできていると理解しているんで、そこについては、皆さんと議論できたらと思っています。

山田伸幸委員 島留学の件では、市がお金を出して、都会から講師を呼んでいるんですよね。それで、勉強に物すごく集中させて、成績も上げて、今までは進学先に選ばれなかったようなところにまで進学先を増やした。そういう結果を見て、また「ここがいい」となって、都会から留学で来るんですよね。そういった取組はちょっと違うかなと思いますね。だから、まちがどういうまち——そういった今ある資源、せっかくある高校を生かそうとした努力というのは、すごく大きいんじゃないかなと思います。

大井淳一郎委員長 まちの魅力を上げていくということは一緒だと思います。それによって、今おる人が——都会に出ることはあると思うんですよ。ただ、年を取って帰ってくるという流れを本当はつくりたいんだけど、なかなかですね。まちへの愛着をしっかりと持ていただくということは必要ではないかとは思っておりますが、なかなかね。

伊場勇委員 島留学について見たんですけど、その特徴としては、「人の熱さ」と出会いの数にきっと驚く。多世代、多様な人との出会い、多様な仲間と過ごす寮、地域で暮らす下宿」。この三つなんですよ。その寮や下宿はハード的なものがあると思うんですけど、その上については本市でもやり方を工夫すればできますよね。だから、そこはどこかから人を呼んでくるんじゃなくて、まず自分たちの、今いる子供たちのためにできることがあると思うんで、そこをもっと魅力的に——ずっといたら、本当は外から見たらすごくいい魅力なのに、そのように感じないこともあると思うんで、そういうところで理科大生から良いアドバイスをもらえるかなと思っています。

笹木慶之委員 いろいろな考え方があるかと思いますが、先ほど少し申し上げたように、いわゆる「ひとを創る」とか、「まちの価値を創る」とか、「地域を創る」とかという言葉が、市政にも反映されておりますよね。

これは何を言っているかという、行政の目的を言っているんですよね。人口減少というものを抑制するという目的があって、目標は政策に反映されておると。そして、それを一つ一つ関係させるというか履行させるための手段なんですよ。だから、こういう政策を語る時には、一応理念となる政策の目的をしっかり定めた中で、手段としての方向性も確認しながら、実効性を持たせると。二つの問題がうまく動かないと実効性が乏しくなっているわけですよ。だから、決して今あった発言については否定しませんが、目的と手段についてはしっかり押さえて取り組むべきだと思っています。例えば、単純に山口東京理科大学に通わせるということだけが人口増につながるものではない。理念が伴って、新たなものを生み出していくと。そういった方向性を確認しながら——ことわざの中に不易流行という言葉があります。その中身を捉えていくべきじゃないかなと思っています。そのような政策を何かしらの形で打ち出していくことが、次のまちづくりにつながっていくんじゃないかなということを申し上げておきたいと思います。

大井淳一郎委員長 テーマは今から絞り込んでいくんですけども、その後に何をするかという、まちのあるべき姿を定めて、そのために現状はどうあるべきか、そのためにどうしたらいいのかというゴールからの発想で考えたいと思っています。私が勝手につくったのではなくて、そのようにしている例が多いので、あるべき姿をまず定めて、現状はどうか、そのためにあるべき姿に近づくためにはどうしたらいいかを考えていくというのが今後の方向性です。笹木委員が言われたのは、その目的をきちんと定めて、そのための手段をどうしたらいいかということで理にかなっていると思いますので、そういった進め方をしたいと思っています。そのほかに、もし御意見があれば。次世代教育、シビックプライド、まちの魅力を上げるという形になってきておりますが、皆さん、何かありますか。

中岡英二副委員長 まちに魅力を持ってもらって、子供たちが誇りを持ってこ

のまちに住んでいただくと。これは教育の一つだと思うんですよ。まちの魅力を知るには、小さいときから地域活動に参加して地域のことを知ってもらおうと。私は四国におったもんで、徳島の阿波踊りや新居浜のけんか祭りなどを小さいときから見て育っています。そして、彼らは自分の住んでいるところにすごく誇りを持って話します。まして、普通なら帰らないときでも帰って、お祭りだけには参加するということに、自分のまちに誇りを持っています。だから、学校教育の一つと言ったのは、そこらだと思うんですよ。地域によって、その地域で子供たちが参加して子供たちのために行事をするんじゃないくて、子供たちが行事を主にやっていくことを考えられると思うんです。一つのことをやるのに、横串が出てくると思うんですよ。何が言いたいかというと、教育に関しては、そういう子供たちの地域に対するシビックプライドというか誇りを持てるような行事に、小さいときから参加させていくことも大事じゃないかと思っております。少し話がそれるかもしれませんが、地域ごとでそういう新しい取組というか、新しい祭りに対して子供たちの参加のようなことを促していくのは、すごく大事なことじゃないかなと思います。

大井淳一郎委員長 言われたことは大事なことで、学校教育がテーマとして挙がっておりますけども、学校だけじゃないですよ。学校教育、社会教育、そして地域と言われましたけど、地域づくりを本市で進めようとしていますよね。それぞれの地域が独自性を持って地域力を上げていこうという流れと、そこにおる子供たちをどう育んでいくか、支えていくかということはすごく連動しているので、副委員長の言われることは大事な視点だと思いますね。

山田伸幸委員 私が先日の一般質問で人口減少問題を取り上げました。そのときに非常に興味や関心を持ったのは、本山地域です。本山地域は、地域の人が一体となってコミュニティ・スクールの取組も非常に強力にやっておられて、それも十数年の歴史があるんですよ。それでも何でここまで減ってしまうのかなと感じていて、あれだけ家も本山岬に向かってど

んどん増えているのに、問題は中心部にあった団地に人がいなくなっているんですよ。団地が一つ消えるということが起こっている。そういったまちの在り方そのもの、特に若い人たちがそこに住み、そして子供を育てる、自らも働いて地域に返していくとできているまちづくりがされていると思っていたんですけど、出てきた数字はそうではなかったということに、非常にショックを受けているんです。特に周辺部に行くほどその傾向が強くて、あんなに魅力的な自然である焼野海岸、本山岬、そして竜王山もありながら、それが定住につながっていないというのは、私自身の考え方も変えなくちゃいけないのかなとは思っています。

伊場勇委員 先ほど中岡委員が言われたことはごもっともだなと思いました。

教育というと、ついつい教育委員会のことだと思ってしまうので、もっと柔軟に考えなきゃいけない。例えば、祭りは、社会教育の部分ももちろんありますけれども、どんどん祭りもなくなってきているので、そこについて、でもこれってどうアプローチしたらいいのか。まちづくりの地域組織にお願いするのか、それとも市民活動センターみたいなところからアプローチしていただくのか。どこがふさわしいのかが分からないですけど、お祭りは、小さい頃にいろいろ体験しているものが、今はなくなってきています。皆さんもそうだと思うんですけども、それって、そのまちで過ごした思い出が一つなくなるわけで、それがインパクトの強いものだったら、なおさらのことですよ。その辺もまちづくりの一環として、山陽小野田市がこういった行事やエネルギーが集まるような事業については守っていくということを何かしら示せたらいいかなと、聞いていて感じました。

大井淳一郎委員長 そういったまちの魅力というか、子供たちへの社会教育も含めた情勢なんかがあると思います。これは吉永委員も思い入れがあるところだと思うんですけども、もしよかったらこれについて何か御意見あれば、どうですか。まちの魅力というか、いろいろ話をしていた子供

たちへのことですね。ありますか。

吉永美子委員 学校教育以外のところ、つまり社会教育的なところ、地域の力がすごく大きいとっていて、そういう意味では、独自性を持ちながら、今度立ち上がるRMOがどこまで関与してくれるかというところに期待しているところです。この委員会としては、議論しているのは政策提言のテーマをどう決めるかというところですよ。私が最初から思っていたのは、政策提言というところは政策が足りていないでしょう、だから、もっとこうしたらいいでしょうということの提言ですよ。それを考えると、当初からやってきた議会報告会で声が出ていることが大きかったり、また、市民からの声を受けて議員が一般質問をしたりしていることは、そこが足りていないということです。それだけ声が出るということは、そこをどう絞っていくかというところが大事だと思ってずっと参加してきたつもりです。どう魅力を発信していくかとか、そういったいろいろな議論をするのはいいんですけど、政策提言のテーマをつくり上げていく手法というか、どこに主体を置いてつくるかというところでは、何かもう少し議論したいと思っています。

伊場勇委員 吉永委員がおっしゃるとおりだと思います。なので、声が多かった道路交通網の充実は入れていくべきかと思っています。それ以外にもいろいろな意見がありました。空き家もです。空き家等の対策の推進について。空き家が増えているから、皆様が不安に思われるようなところがあると思いますので、そこについては話すべきかなと思います。ただ、何か根幹的なところがあるじゃないですか。地域公共交通網をしたからって、子供たちが本当にシビックプライドを感じて、後々、20年後、30年後に何かあるか。今しておかなきゃいけないことはなんだっていうことです。長期的な部分と短期的な部分でいろいろ分けて考える必要があるかなと思っています。公共交通をやることは断然いいと思いますが、プラスその根幹のところと二つ合わせたらどうかなと思っています。

山田伸幸委員　なかなかネットの情報と新聞情報だけじゃ分かりづらいところで、それなりに成果を上げているところを生の目でぜひ見てみたいというのがあるんですね。以前、民生福祉常任委員会で国東市に行きました。そのときに本当に行きたかったのは、国東市ではなくて豊後高田市だったんです。日本一の子育て推進のまちに移住者が300人ぐらい来て、それがさらにまた横に広がっている。そのためには、その人たちが入ってこられるような空き家を有効活用していくという事業まで、どんどん広がっている。ぜひ見てみたいなというのがあります。それと、やはり山村ではあるけれど、津和野町の取組ですね。どういうふうに立ち上げて、実際に政策として機能しているのか。その辺が私たちの一番の弱点かなと思いました。机上の空論ではなくて、具体的に道筋をつけていかなくتهはいけないのではないのかと思いました。

大井淳一郎委員長　必要に応じて先進地を見たり聞いたりということはやっていかなきゃいけないと思っています。

中岡英二副委員長　山田委員の言われるとおり、先進地を見るということは大事だと思いますが、まずはここでテーマをしっかりと決めて、そのテーマの目的をしっかりとした中で、その視察地に伺ってしっかりと聞いていきたいと思います。まずテーマが決まれば、プロセスとして先進地を見るというのには賛成です。

山田伸幸委員　特に今の本市では、RMOが何か起死回生の手段みたいに言われているんですけど、その地域にそういった思いや共通理解をきちんと持っている人たちがいないと、ただ会議ばかりやって何も進まないということではいけないと思うので、RMOが機能しているようなところも見ておかないと、私たちの議論は先に進んでいかないかなと思います。それと、先ほどあった公共交通の問題です。私が産業建設常任委員会に所属していたときに、玉野市に行ったんです。その結論として、こうい

うのがいいって執行部に提案したんですけど、握り潰された。（後刻訂正あり）（笑い声）また2回目に、私はその次はもう産業建設委員会を離れていましたので、今度は後の人たちがまた玉野市に行かれて、玉野市で勉強してこられて提言しているんですけど、何かに阻まれてそれが進んでいない。実際に見ましたけれど、人口もそう多くないし、玉野市の取組は非常に参考になったんですよ。玉野市は東西に広いんですけど、本市は南北なんですよ。これをひっくり返せばつなげられるなと思って、みんなで委員会として提言を出したわけですよ。全然生きてこないのはなぜでしょうかね。ほんとじくじたる思いだけを抱えています。

大井淳一郎委員長 今の握り潰したという表現は改めてください。（笑い声）表現を少し変えてください。よくないから、握り潰したという発言は。訂正してください。

山田伸幸委員 握り潰したという表現ではなくて、うまく政策に生かしていただけなかったということです。

中岡英二副委員長 この進め方ですよ。先ほど山田委員が言われたように、ある程度勉強していくのもいいと思うんですけども、今、交通施策はどのように執行部で取り上げてやっているのか。その現状と、この委員会の中で問題点というか進んでいないところを協議していくのが一つだと思います。こちらの意見を一方的に通すのではなく、執行部との協議の中で新しい提言をしていくというのが、この委員会の在り方じゃないかなと思っています。

大井淳一郎委員長 4月からの展開とすれば、執行部に現状を聞きます。ただ、私たち委員が肝に銘じておかなきゃいけないのは、執行部を批判するとかではなくて、執行部とともにいい方向につくり上げていくということです。そこが大事なところという視点は皆さんもお持ちだと思いますんで、副委員長が言われたこともやっていかなきゃいけないとは思ってお

ります。

山田伸幸委員 執行部とともにというのであれば、大井委員長も吉永委員も行かれたと思うんですけど、邑南町です。あれは執行部と議会が一緒に視察に行っているんですよね。そこで後々の施策である子育て支援に実際に生きてきているんですよね。だから、そういうことも大事なかなと思います。

大井淳一郎委員長 僕はおらんやったです。邑南町に行って子育て政策が進んで、医療費助成制度があれから上がっていったね。あれだけやないけどね。子育ての政策が進んでいったというのは、はたから見て思いました。どうしましょうか。公共交通とか学校教育とかという広い意味での子供の未来、次世代への育成のあたりが大きく出ていると思います。

笹木慶之委員 もう1点、あえて言っておきたいんですが、公共交通網という言葉が出ました。それを全て否定するわけじゃありませんが、それが整備されたことによって、地域は通過点になるんじゃないかと。袋小路みたいになってしまって、そこで止まればいいんだけど、通過地点と化してしまえば、利便性がよくなっただけで、残るものがなくなってしまう可能性もある。そうすると、先ほど言ったように、整備するのはいいし、それが本来の目的であれば有効なんだけど、手段であるならば、それは違うんじゃないかという考え方は言っておきたい。それは何かといったら、現職の頃に、随分長い間をかけて新幹線の厚狭駅における議論をしたことがあります。それは何のためにどうするのかという話でしてね。多くの自治体の皆さん方と話をしながら進めてきたと。現実的な今の山陽小野田市の新幹線厚狭駅の姿を見たときに、どうかといったら、たしかに人口増加につながってきたわけですよ。通勤者が増えてきた。住宅がどんどん増えてきています。ひとときそういう状況になってきた。もちろんこれは小郡もそうだった。それがやっぱり、手段ではなしに目的であったということ。目的を持って行政が進めた政策が功を奏したとい

うことになったと。だから、細かい部分をどうだこうだ言うつもりはありませんが、人口を増やして、そして、皆さんが住みやすい地域にしていこうということが目標につながっていけば、その手段も有効なんじゃないかなと。両者を合わせてね。だから、そこはやっぱり考えていかないと、片肺飛行では政策がかなわんのじゃないかなと思います。したがって、あえて言っておきたいことは、そういった目的に従った政策をきちんと履行させながら、手段を使っていくという政策をつくり上げていくべきじゃないか。そういう提案にしたいと思っています。少し厄介な言い方をしましたけどね。

大井淳一郎委員長 厄介ということではないんですけど、こういう視点を持ちなさいという意味では大変参考になる意見だと思います。政策を打って、これでうまくいくと思ったら、違う効果が出るということはよくあります。笹木委員が言われた交通網というのは、いわゆるストロー効果というやつで、来てもらおうかと思って道路を整備したら、皆さん外に出て行ったということもある。ただ、これも難しいところで、何かを恐れて政策を出さないのはよくないし、常にたちごっこという言い方をしてはよくないかもしれないんですけども、何か政策を出せばまた別の効果が出てくるので、それをまた別の形で埋めていくということが必要だと思う。それがやっぱり政治にゴールはないというやつで、僕らは、現時点で何が足りなくて、何を埋めていかなきゃいけないかということは考えていかなきゃいけないかなと思います。

山田伸幸委員 本市の特徴として、下関市と宇部市に挟まれたまち、あるいは真向かいには北九州市があるまちなんですね。そういった人々から見て、山陽小野田市に住みたいと思わせるような施策が必要だと思うんですよ。竜王山のオートキャンプ場は、北九州の人の利用がかなり多いんです。せっかく埴生地域の糸根公園の開発が出ています。たとえ通過点としても、そこに魅力的なものがあれば、ちょっと寄ってみようかということになるかと思うんです。そういった施設になるのか、どういうもの

を造ることができるのか。そこでは議会がもっと積極的に情報を発信して、そして意見を言うことが求められているんじゃないかと思います。幸いにも、焼野海岸は大規模な開発が終わった後で、あとはそれをどう生かすかということにつながっていているので、津布田海岸との沿岸地域を結んで、魅力を上げていくことで、先ほど言ったような、宇部市、下関市、北九州市に挟まれたまちとして生き抜いていくすべがあるんじゃないかなと思います。

大井淳一郎委員長　魅力を上げていく。よく言うストロー効果を逆ストローにして、こっちに吸い寄せるためにはどうしたらいいかという観点ですね。ただいま魅力とか住みよさとかがキーワードとして出てきました。そのためにどうしたらいいかという手段で、観光に来た人にとって交通手段が不便だと使い勝手が悪いですし、また、魅力を上げることによって、地域力を上げることによって、次世代の子供たちが、僕たちがいなくなった後も引き継いで、持続可能にやっていくっていうことは必要なことだと思いますよね。魅力とか住みよさとか、そういったキーワードが必要になってくるのかなと思いますね。そのためにどうしたらいいかということですね。（発言する者あり）そうですね。難しいんですよ。だから、そうすると総花的じゃないけど何か広がってしまうので、絞ってこういう話で進めてきたんです。公共交通の関係でいうと、魅力あるまちみたいな感じで、学校教育に捉われずに広い意味での次世代育成みたいな形の二つが出ています。共通項を無理やり見つけてやるというやり方もあるし、二つを独立したテーマとしてやっていくということもあります。ただ、なかなかこの二つを9月までにやるのは難しいのかなというところもありますよね。

山田伸幸委員　子育ても地域公共交通も両方解決したまちがあるんですよ。一つだけやればそれで終わりじゃないということですよ。やっていたら、こういうことが足りないから、これをやらなくちゃいけないというような、それこそ民生福祉常任委員会で見に行った国東市はそうでした。公

公共交通にも目を向けているし、定住促進も併せて、その財源が必要だということで、ふるさと納税を35億円も集めるような努力もしていると。やっぱり複合的に取り組んでいかないと成功しないと思います。

大井淳一郎委員長 もちろん一つやれば終わりじゃないというのは私も同感です。皆さんもそれは同じだと思います。いかがでしょうか。ここで暫時休憩をしたいと思います。

午後2時25分 休憩

午後2時51分 再開

大井淳一郎委員長 それでは、委員会を再開します。皆さんからいろいろ貴重な御意見を頂きました。今までの話をまとめますと、山陽小野田市に住みたい、住み続けたいと思ってもらえるまちをつくらなきゃいけないと思っています。それをあるべき姿と定めまして、そのためにどうしたらいいかと考えたときに、これまで皆さんが意見を出されていた公共交通の問題、次世代の育成、山口東京理科大学との連携といった形を柱にして進めていきたいと思っています。もちろん具体的な中身については、私たちが協議するだけでなく、外に出ていろいろな団体との意見交換や先進地への視察を取り入れていかなければいけないと思っております。取りあえず、これを案としてまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」と呼ぶ者あり）では、そのようにしたいと思っています。それでは続きまして、政策提言のテーマとしてするかどうかも含めて考えたいところで、跡地活用の問題があります。こちらをめぐってください。跡地活用の問題です。これについては総合計画の中には組み入れることができなかったもので、独立したテーマとして考えていきたいと思っています。跡地活用については、一般質問の答弁から抜き出したものでございますが、ここに書いてあるように、本市の方針としまして平成31年3月に

公共施設跡地活用方針を策定しているということと、実施手順について定めているということ。よく言われる市有財産活用検討委員会で、方針については都度決定している。ただ、場合によっては継続して慎重に検討を行うケースもあるといったことが書かれてあります。下にあるのは先進事例です。利活用計画を出すところもあれば、利活用方針を出すところもあるし、促進条例というものもあります。よく跡地活用として引き合いに出されるのは廃校の活用でありまして、これは文科省の資料から取り出したもので、中国・四国地方に絞ってみると、このようなものがあるといったことです。ちなみに、山口県周防大島にはサテライトオフィスがあるそうです。学校というのはよく出てくるとということと、問題になっている跡地活用では旧津布田小学校や旧埴生小学校が出てくるので、学校の関係を出させていただきました。もちろん学校以外の跡地もありますので、それをどう活用していくかを考えたいと思います。これにつきましては、本市の方針が書いてあるものの、正直、公共施設跡地活用方針とか市有財産活用検討委員会が今ではどうなっているかわかっていませんので、まず本市の現状を担当部署から聞いた上で、私たちが跡地活用についてどう取り組んだらいいかということを考えていきたいと思います。具体的に計画、方針、条例とかがありますが、これをどうするかは、またその後に決めたいと思います。これは政策提言とは別に複数の意見も出ていましたし、重要な意見でもありますしテーマでもありますので、跡地活用の問題も併せて取り上げたいと思いますが、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）そのようにしていきたいと思います。跡地活用について、皆さんから何か御意見あれば、よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）これは、後日にまたやっていきたいと思います。

山田伸幸委員 これには、廃校は具体的に出ているんですけど、この間も言ったかもしれませんが、駅舎をＪＲから譲り受けて活用するというのもあります。そういうのも、もしやっているところがあれば、見るなり何かなりをしていけるんじゃないかなと思います。

大井淳一郎委員長 意見として考えます。そのほか、よろしいですね。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、これからの流れですけれども、4月に入りまして、まずは政策提言のテーマに沿って本市の現状を聞きたいと思います。それに応じて、私たちがどういう方針を立てるかを決めていきたいと思います。4月に入ってゴールデンウィークにかけて何回か開くと思いますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。以上で、政策提案特別委員会を閉じます。お疲れさまでした。

午後2時58分 散会

令和6年（2024年）3月22日

政策提案特別委員長 大井 淳一郎